

第2回 天橋立周辺景観まちづくり検討会が開催されました。

景観まちづくりに関する課題抽出や地域別景観形成の方向性などについて意見交換が行なわれました。

天橋立周辺地域における景観まちづくりについての良好な景観形成の方向性と景観法を活用した実現方策等を調査・検討する「天橋立周辺景観まちづくり検討会」の第2回検討会が、11月4日に宮津市労働会館で開催されました。

検討会の第1部では、景観まちづくりに関する景観要素別及び地域別課題について、眺望点からみた景観、歴史資源を中心とした町並み景観、屋外広告物や移動（動的）景観、公共施設等を中心とした景観のもつ現状課題や今後のあるべき姿もふくめ、活発な意見交換が行われました。

続く第2部では、今後、具体的な地域別の景観形成を考えるにあたり、どのようなテーマで景観まちづくりを行なうかということについて、意見交換が行われました。

今後はこれらの意見を踏まえ、次回検討会に向けて、具体的な地域別景観形成の方向性と周辺地域における広域的な景観形成について検討を進める予定です。



第2回検討会で出された主な意見

景観要素別の課題と今後の方向性等についての提案

眺望点から天橋立を望む景観について

- ・天橋立は場所によって見え方が様々であることから、場所毎の景観について考えるべき。また、天橋立内部からみる景観もすばらしい。
- ・天橋立十景と欲張らずに八景に絞ってはどうか。

歴史資源を中心とした周辺の町並み景観、田園集落について

- ・町並み景観の保存などについては、ゾーンを分けて景観まちづくりを考えてはどうか。
- ・田園風景が多く残っているなかで、休閒田の雑草等が気になる。

屋外広告物について

- ・広告物は業種毎に色や形を統一し、数を規制してはどうか。
- ・地域の人たちが自発的にルールをつくり、大きさや色等を決めていく必要がある。

移動（動的）景観（国道178号、鉄道、観光船）について

- ・船を活用したパークアンドライドを行うなど、車で通過するだけでなくゆっくり景観を楽しんでもらえるような工夫をしてはどうか。また、地元の交通機関や行政、観光関係者が一体となって観光客が気軽に利用できる周遊バスを運行してはどうか。

公共施設を中心とした景観について

- ・沿岸に建つ公共建築物の白色が目立ちすぎる。天橋立や周辺の山並みとの調和に配慮した色決めが必要。公共施設が先導し見本を見せることで民間にも広げていく必要がある。
- ・大規模な建築物は色や形のコントロールが必要である。

環境面・意識の醸成

- ・阿蘇海の浄化、きれいな海にもどすことが天橋立の活性化に一番必要である。
- ・まちづくりは環境整備があってこそだと思ふ。
- ・景観を守ろうとする住民意識の育成が必要である。



第2回検討会で出された主な意見(続き)

地域別景観形成の方向性の検討について

宮津中心市街地地区

- ・古き良き時代のものがまちなかに点在している。そういう資源を活かした景観まちづくりを行なうてはどうか。
- ・海辺や水辺を活かしたまちづくりを進めてはどうか。

文珠地区

- ・「知恵のまち文珠」は知恵を授かるという意味で、そこから文珠ブランドを創ってはどうか。
- ・小天橋にハマナスが群生している。こうした資源を活かすことができないか。

岩滝地区

- ・阿蘇海に飛来するコハクチョウが有名。野鳥と親しめるような場所としてはどうか。
- ・「町並みに気品を感じる」という意見がある。こうした町並みを保全活用してはどうか。
- ・「丹後ちりめんのまち」を印象づける。

府中地区

- ・雪舟の天橋立図をイメージしたまちづくりを計画している。
- ・府中地区は室町時代の風景が今も残り、田園風景も特徴的である。
- ・倒木松を活かした公園づくりを行ってはどうか。

みんなで天橋立の景観を考えよう!」・みんなで天橋立公園について考えよう!」

第1回、第2回ワークショップが開催されました。

天橋立やその周辺のまちの景観の「良いところ」や「気になるところ」、「改善してほしいところ」などを考える第1回ワークショップ(10月22日開催)と天橋立公園の「自慢できるところ(お宝)」マップづくりや資源を活用したアクションプラン(行動計画)を考える第2回ワークショップ(10月29日開催)が開催されました。

第1回ワークショップでは、28名の参加者が宮津中心市街地、文珠、岩滝、府中地区の4グループに分かれ、それぞれの地区における景観点検マップづくりに取り組みました。

参加者が日頃の生活のなかで景観について考えていることや「まち歩きウォッチング」のなかで気づいたこと等について、様々な意見がだされました。

第2回ワークショップでは、12名の参加者が文珠と府中グループに分かれ、それぞれの地区におけるお宝(自慢できる地域資源)マップの作成や、それらを活用したまちづくりに向けてのアクションプランづくりに取り組みました。

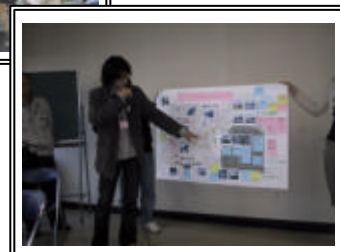
お宝としては天橋立のマツ林のほか、廻旋橋、砂浜などがあげられるとともに、これらを生かした公園に向けたアクションプランについて様々な意見が出されました。

今後は、これらの結果をもとに、地域の特性に応じた景観形成のあり方や公園づくりのあり方などを検討会において考えていきます。



ウォッチングの様子

グループ発表の様子



ウォッチングの様子

グループ発表の様子



次回(第3回)検討会について

日時:平成18年2月9日(木) 午後1時30分~午後4時

会場:みやづ歴史の館 大会議室

傍聴自由ですので、ぜひお越し下さい。

編集 発行

【事務局】

京都府 土木建築部 都市計画課 電話:075-414-5327(直)

京都府 丹後土木事務所 企画調整室 電話:0772-22-2143(直)